

# 東日本大震災支援活動の 現状とこれから ～私たちに何ができるか～

神奈川県立保健福祉大学  
顧問 山崎美貴子

# 地震発生直後は混乱期

2

- 救命救急・緊急支援
- 被災者が当事者でありながら身近な支援者
- プラス面とマイナス面

# 人災と自然災害

3

- 自然現象により、人の命や生活を破壊され、立ち直ることが困難になり生きる希望を失ってしまった人
- 何から手を付けてよいかわからない

# 今回の災害の特徴は・・・

4

- 規模が大きい
  - 複雑で深刻な課題
  - 未だ先が見えない
  - 生活再建に時間がかかる
- 長期的支援の必要



# 被災者のニーズに変化

6

- 家族、親族、友人などの身近な人を亡くしてしまった人
- 現在行方不明になっている人
- 長く住み続けていた場所に戻れなくなった人、戻れない可能性のあるひと人
- 仕事を失ってしまった人
- 今までのライフスタイル・文化・趣味・人間関係を失ってしまった人

# 6か月を経過した今・・・

7

- ▶ 被災地の人に出会ったらどんなふうと言葉をかけますか？
  1. お子さんの死、家族の死について語られる時
  2. 「何もかも失ってしまった」と訴えられた時



# 被災者支援ボランティア活動

8

- 暮らしを取り戻すことを一緒にすること  
→被害を受けた方々としっかりと  
コミュニケーションをとる
- 泥をかき出すことが目的ではない。泥かき・清掃・片づけは、つながり合うためのきっかけ作り、被災地の人々に寄り添う活動、つながりづくり活動へ  
→交流を進める活動を



- 人間を応援するために行う活動がベース
  - 地域を再生することが目的
  - 活動を進める上で考えてみる
- 困っているのは仕事と住む場所  
外で遊べない子ども・健康被害・  
現地の商売、観光に人が来ない
- 被災地外に移り住むと相談する人がいない、情報が無い等心配ごと

# 考えてみよう

10

- 泥かき・清掃の次に何ができるか、  
どんな支援ができるか・・・？



# 被災地の外から支援を始めてみる・ 考えてみる

11

- 現地を離れた人(公営住宅等や身近な地域で暮らす被災者)への支援
- 知り合いの人の支援
- 人の命の大切さ、なぜ命は大切か
- 今一度、家族や地域について考えてみよう
- 暮らしを見直し住まいを防災基地に  
高齢者に地上デジタル放送を
- 被災者支援と被災地支援
- 様々な企画のアイデアを

# そして被災された人と出会ったときにどうあるべきか？

12

- 被災者が地域に転居していることをどのようにして把握するのか。
- 現地自治体は必ず転居先の自治体に連絡を入れているが、個人情報保護の壁に突き当たる。それをどのように乗り越えるか
- 被災された方と同じ人として、一緒になって支えあってゆくことに到達するため

# 地域で、現地で支援するにあたって

13

- 人の話を聞く力を身に付けるために  
できること…
- 準備や研修が必要な支援
- 既にそうした研修を行って  
専門職として活動できる人

# 日頃から蓄えておくのと役に立つ 研修を準備

14

- 言葉の持つ力
- 聴き取るという作業
- 声にならない言葉の持つ力
- 傍らにあるということ
- 身振り言語と手振り言語

- 語尾の持つ力
- 声の持つ表情
- 言葉の速度と言いよどむこと
- 沈黙の持つ力
- 間の取り方、質問攻めにするのではなく・・・



- 善意ではなく、一人の人として精一杯の誠意を……
- 相手を本当に理解することは出来ないが、懸命に理解しようとすることはできる
- 相手の望みを受け止める
- 関わる力、捉える力



- 相手を大切にすること
- 相手に寄り添うということ
- 支え合う→そこから観えるもの
- 伝えあうものは何かを吟味する



# 現地に配置された 生活支援相談員の役割

18

- 発見と気づき…ニーズ把握
- 見守り支援
- 戸別訪問・お茶飲み会などへ繋ぐ
- 一人ぼっち、孤独死への対応
- 住民同士の繋がり、地域福祉活動支援
- 支え、繋ぐ
- 相手に出会うという瞬間
- 純粹な気持ち

# 苦しみ、悩みがありながら 支援が届かない人へのアプローチ

19

- 生活上の困難を抱えながら問題を  
外在化できない、しない人びとの  
支援こそ課題
- 呻きへの応答、自分の力で解決しえ  
ない、困難、苦しみ、哀しみ、空しさ  
辛さを抱え、孤立している人、弱さの  
持つ力への支援こそ

# 抱え込まないで、繋ぐには

20

- 繋ぐ力を磨くために
- 個別の課題を気づき、発見し、捉えるシステムの構築を急ぐ
- その課題はその人固有の課題か、同じような課題を抱えている人がほかにもいるのか、
- 地域の共通課題を共有するために、既に地域で話し合いが始まっているか。更に進んで当事者同士のグループ、組織ができつつあるのか。

# 個人・家族・組織・ コミュニティを串刺しにする

21

## 私達の仕事は

- 1) 個人
- 2) 家族・集団・組織
- 3) コミュニティ

までを対象にするという、地域福祉総合  
相談を進める事のメリットを知る

- 発見、気づきのシステムを地域に
- 抱え込まないで解決のための支え合う資源を発見し、資源を創り、開発する力を生み出す仲間作りを
- まず、エコマップを一つの事例をもと作成する
- 普段活用している資源のリストを作るそれを点検して、偏り、不足、欠陥を探る

- 人は一人では生きられない  
一人ぼっちを作らない
- 共に生きるということ  
心と心がつながりあうコミュニティ
- 困ったときに相談する人がいるか  
困ったときに飛んできてくれる人が  
いるか
- みんなでつくる→地域災害の地で  
出会った学び

- 地域を点検する仲間を作る
- 聴く力、観る力、感じる力 考える力、知る力、伝える力、交渉する力、ネットワークする力、協働する力を日頃から磨く
- 動く
- 繋げる
- 繋がりあう
- 結び手に

